

地震による電気火災対策を！

～菊池広域連合消防本部からのお知らせ～

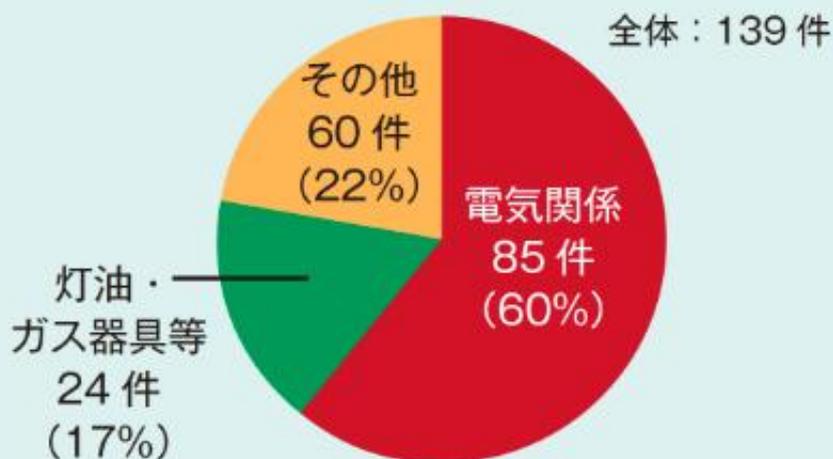
▶感震ブレーカーを設置して地震で発生する火災を防ぎましょう！

阪神淡路大震災、東日本大震災や能登半島地震で発生した火災の多くは、地震の揺れに伴う電熱器具からの出火や停電復旧時に断線した電気コードからの出火といった電気が関係する火災（通電火災、復電火災）によるものです。

このような火災を防ぐためには「感震ブレーカー」の設置が効果的です。

▶大規模地震時における火災発生状況

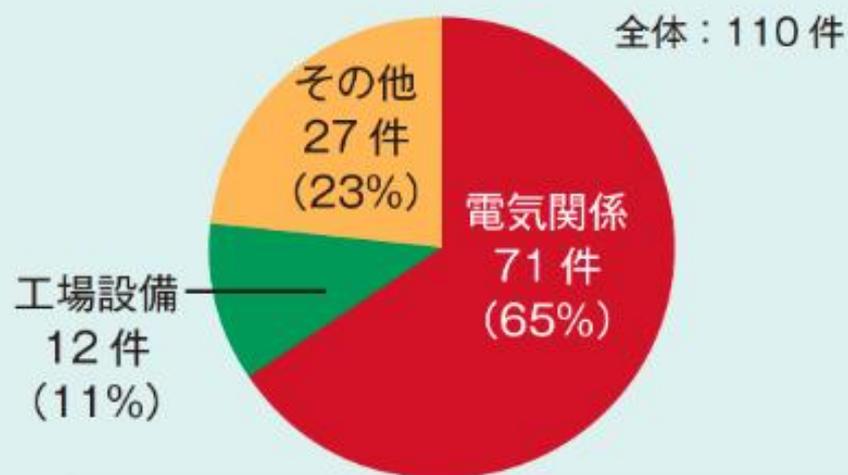
《阪神・淡路大震災》



総出火件数139件のうち、電気関係は85件（約6割）

<消防庁検討会報告書（1998）>

《東日本大震災》



総出火件数110件のうち、電気関係は71件（約6割強）

<日本火災学会調査（2014）>

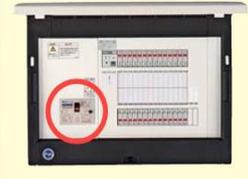
▶ 「感震ブレーカー」ってどんな器具？

感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するのに有効なものです。

▶ 「感震ブレーカー」の種類は？

分電盤タイプ（内蔵型・後付型）、コンセントタイプ、簡易タイプがあります。電気工事が必要なタイプと不要なタイプもありますので、製品ごとの特長・注意点を踏まえ、各家庭にあったタイプを選びましょう！

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

（注）住宅分電盤の種類に適した製品をお選びください。

▶ 「感震ブレーカー」設置時の注意事項

感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。

1. 生命の維持に直結するような医療器具を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
2. 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。
3. 感震ブレーカーの設置に関わらず、地震時やその他の自然災害時にも大規模な停電が発生するおそれがあることから、平時から停電対策に取り組みましょう。

▶ 耐震対策等と合わせて取り組むとさらに効果的です。

避難路の確保等のために、建物の耐震化や家具の転倒防止等に取り組ましましょう。

復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認を行ってください。

万一復電後、焦げたような臭いを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度安全確認を行い、原因が分からない場合には電気の使用を見合わせる必要があります。

定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品等の交換を行いましょう。

【関連情報】

[経済産業省HP](#)

[内閣府HP](#)

[感震ブレーカー普及啓発リーフレット](#)

[地震火災を防ぐポイント](#)

【お問い合わせ】

菊池広域連合消防本部 予防課
熊本県菊池郡菊陽町大字原水7番地1
TEL 096-232-9334